

九州保健福祉大学

平成27年度
健康管理センター活動報告書



九州保健福祉大学 健康管理センター

はじめに

従来、健康管理センターは学生相談業務のみを担当していましたが、平成19年度より保健業務を加えることにより、学生相談室と保健室の2室構成となり、学生の心身の健康問題に総合的に対処できるようになりました。

肥満、若年性糖尿病、喘息、花粉症、食物アレルギー（ピーナッツ）、胃食道逆流症、がん、セリアック病、クローン病や潰瘍性大腸炎（炎症性腸疾患）、自閉症、湿疹などが右肩上がりに増加しています。

日本で「帝王切開」により出産した人は、2011年の統計では、総出産数104万人のうち19.2%にあたる約20万人と推定されています。妊婦さんの約5人に1人が帝王切開により出産していることとなります。出産数自体は減少しているにもかかわらず、帝王切開による出産は過去20年間で約2倍に増えています。

ヒトの身体で最も重いのはどの臓器でしょう。脳でも肝臓でもありません。ヒトの体は30兆個の細胞よりなり、それとは別に100兆個もの細菌や真菌がヒトの体に住んでいます。私たちの身体を構成する細胞の70から90%は、ヒト以外の細胞ということになります。すべての細菌を合わせると、1人あたり約3ポンド、つまり脳に匹敵する重量の細菌がヒトに常在し、その種は1万に及びます。腸内細菌叢だけでも2Kgあるとする説もあります(決して宿便ではありません)。常在菌は病原体に対して防御的に働くことがわかっています。

経膈的に出産した新生児と帝王切開によって出産した新生児で、細菌叢に何らかの違いがあるかどうかの調査で、自然分娩した新生児の口腔、皮膚、腸管は、経膈分娩した母親の膈常在細菌で埋め尽くされていました。一方、帝王切開によって生まれた新生児の細菌叢は、ヒトの皮膚あるいは空気中に浮遊している微生物、あるいは看護師、医師の皮膚上の細菌、シーツなどの洗濯物の細菌に類似しており、母親の乳酸桿菌はそこにはありませんでした。

新生児が新しく獲得する細菌叢に対するもうひとつの脅威が、母親に投与される抗生物質です。帝王切開を受ける女性の100%が事前に抗生物質の予防投与を受けることになっています。微生物は妊娠過程にも隠れた役割を演じています。たとえば、妊婦はなぜ胎児と胎盤を合わせたよりも重い体重を獲得するのでしょうか。答えは細菌です。

出生してからも抗生物質によって、子どもの常在細菌叢は乱れます。アメリカ疾病管理予防センター(CDC)とアメリカ小児科学科(AAP)、微生物学会が共同

で制作した保護者向け啓発資料「Your Child and Antibiotics」の標語

「Unnecessary Antibiotics Can Be Harmful (不必要な抗菌薬は有害である)」
があります。

宮崎市では、4～5年前より就学前の子どもの外来・入院医療費がただになり
ました。目的は少子化対策だそうですが、全く効果が上がっていきそうにありま
せん。発熱の子どもが1人いるときには、ほかの兄弟も全員、受診します。本命
は誰だといいたくなります。わずか2、3歳の子どもの錠剤を処方しろと、湿布
や軟膏を大量に出せと。(大人が使うなよ。)念のための解熱剤、風邪薬(水
薬だったら、1週間くらいでだめになります)。あの検査をしてくれ、処方7
日分だ。私はfull setと呼んでいます。予防接種、検診、ついでに鼻水の処方。
小児科医院は土曜日でも患者サービスで夕方まで開けていますが、必ず閉院直
前に5日前からの鼻水がきます。レセプトの審査もいいんですが、社保や国保
から患者自身へお前のとことは使い過ぎだと指導する方がはるかに医療費の削
減ができると考えます。

子どもの医療費は本当に無料でしょうか。各健康保険組合、国民健康保険と
自治体が補填しています。日本の借金は1,039兆円を超過しています。無料だと
思っていた子どもの医療費ですが、実は単に先送りし、子どもたちの未来に押
し付けています。国民医療費は年1兆円ペースで増加しています。2011年度は38
兆5,850億円でした。そのうち15歳未満の子どもの医療費は6.5%で、目くじらを
たてることはないという意見もありますが、保護者に医療コストをきちんと理
解してもらうことにより、祖父母・両親・子どもたちの3世代にわたる医療費の
削減に結びつきます。

私が小児科を選んだ理由は、消去法です。血が嫌ですから、まず外科系はな
し。じいちゃんやばあちゃんも苦手だから、必然的に小児科ということになり
ます。ところが最近、小児科の外来はやたらととうちゃんとばあちゃんが子ど
もを連れてくるのが多くて、まったく面白くありません。冗談で看護師さん
に私の外来の時には、Toe-chain do me, do me. Chamber, more, do me, do me.

(小林西諸県弁のフランス語風のように読んでください)と書いた張り紙をし
ておいてくださいと。じいちゃんは哀愁が漂っているのですしかたありませんが。
それからおかあさんが小児科に子どもを連れてくる時にはFull make-upで、し
っかり診察しますから。

参考文献

マーチン・J・ブレイザー（山本太郎 訳）：失われ行く、我々の内なる細菌. みすず書房, 2015.

草刈 章：抗菌薬の弊害①-プライマリ・ケアの立場から-. 治療 特集こどもの風邪 96(10):1472-1476, 2014.

金子英哲：過剰診療とコスト. 治療 特集こどもの風邪 96(10):1501-1503, 2014.

平成28年12月

九州保健福祉大学
健康管理センター長
園田 徹

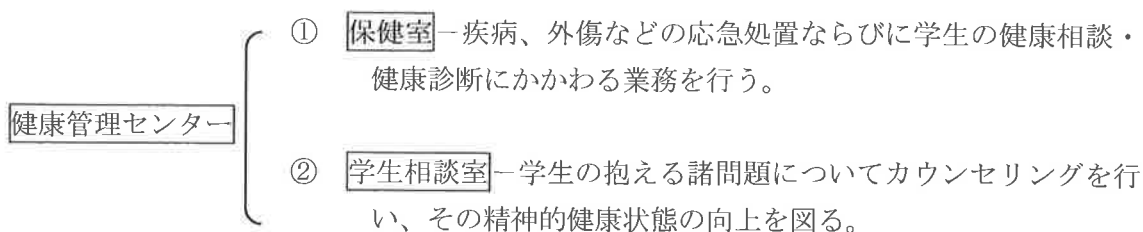
目次

I.	組織構成ならびに構成員	1
II.	学生相談室の利用状況と今後の課題	2
III.	保健室の利用状況と今後の課題	4
IV.	附録	
	1. ジカ熱について	8
	2. 学内AED設置場所	

I 組織構成ならびに構成員

1. 組織構成

平成 18 年度までは、健康管理センターは主として学生相談のみを実施してきたが、平成 19 年度に機構改編を行い、従来の業務である学生相談業務に保健業務も加え、学生の心身の問題に包括的に取り組める体制となった。



2. 平成 27 年度構成員

構成員は以下のとおりであり、それぞれの専門領域に応じて学生相談室業務と保健室業務を分担して実施した。

- ・センター長 園田 徹
- ・専門委員 佐藤 圭創
- （学生相談） 田中 陽子
- 前田 直樹
- 内勢 美絵子
- 貫 優美子
- ・学生相談員 完岡 恭子
- ・事務職員 黒川 真舟（学生課と兼務）

II 学生相談室の利用状況と今後の課題

1. 学生相談室の利用状況

平成 27 年度の学生相談室の利用者は 133 名で、平成 26 年度の 68 名から大幅に増加した。利用者の多かった時期は前期であり、特に 6 月の利用者は年間で最多であった。一方、10 月以降の後期に入ると利用者は減少傾向を示した。相談内容では、年間を通して、「適応問題」と「健康問題」が多く、後期に入ると「修学問題」が見られるようになった。今年度は、前期に相談の件数が多く、それが後期に減少したことから、昨年度の課題であった、問題への早期の対応が効果的に作用したのではないかと考えられる。しかしながら、「健康問題」「適応問題」の相談は昨年度よりも増加しており、現代の大学生が様々な心理的問題を抱えて学生相談を利用していることがわかる。特に「適応問題」の多くは「対人関係の問題」であり、大学生の多くが対人関係の問題を抱えていると考えられる。また、今年度は女子学生の相談件数が男子学生より多くなっており、女子学生が様々な問題を抱えて学生相談を利用していることが明らかになった。学部別では、社会福祉学部、薬学部の利用が多く、保健科学部、生命科学部の利用は非常に少なかった。学年別の利用者数では、低学年の利用が高学年よりもわずかに多いものの、誤差の範囲であろうと思われる。

2. 今後の課題

今年度は昨年度に比べて学生相談室利用者が大幅に増加した。昨年度に比べると今年度は「適応の問題」に関する相談が増加していた。近年、大学生の対人関係、コミュニケーション、社会的スキルの問題が指摘されている。SNS をはじめとするコミュニケーションツールの発達により、学生同士のコミュニケーションのパターンも変化していると考えられる。今後は、適切なコミュニケーションツールの使い方の指導や、社会的スキル向上を目指した SST など重要な学生相談室の仕事になるであろう。

今年度は昨年度に比べて、前期の利用が増加していたが後期に入ると利用者が減少していた。これは、昨年度の課題であった、問題への早期の対応が効果的に作用した結果であると考えられる。近年、学生同士の複雑な人間関係に加えて、精神疾患等で精神科に通院して服薬している学生も多く、今後、学生相談件数が大幅に減少する可能性は低い。したがって、健康管理センターは、これまで以上に支援体制を整え、問題の早期対応、早期解決を目指して様々な学生の問題に対して迅速に支援していく必要がある。

(前田直樹)

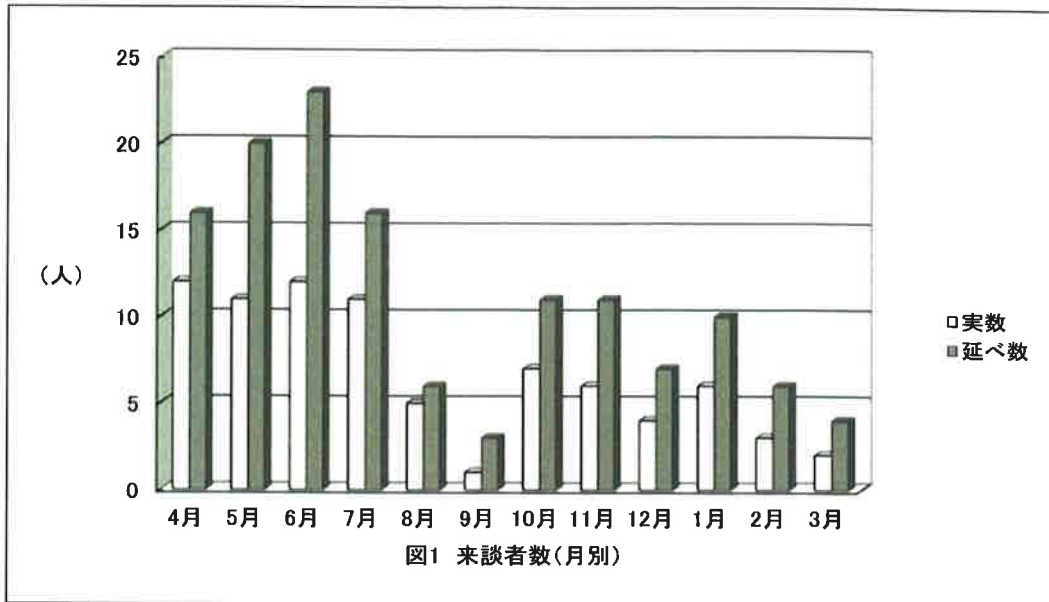
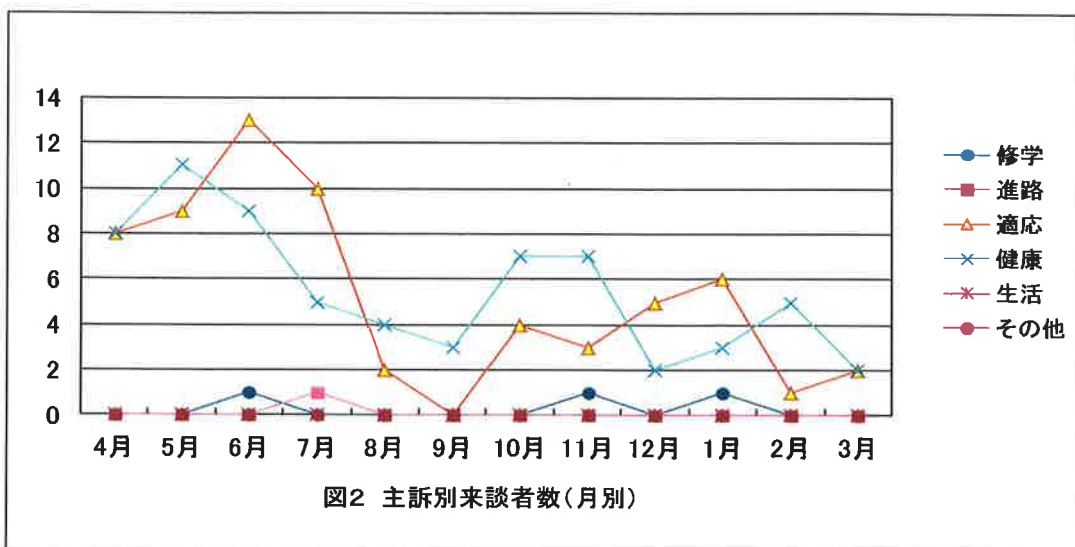


表1 学部別学年別来談者数(年間)

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	通信他	実数合計	延べ数合計
社会福祉学部	男	1	1	2	1				5	34
	女	1	2	1	2				6	43
保健科学部	男	1		1					2	2
	女	2							2	2
薬学部	男	3	1	1	1		4		10	11
	女	2	5	2	1	2			12	38
生命医科学部	男	1							1	1
	女	2							2	2
合計	男	6	2	4	1		4		18	48
	女	5	7	3	3	2			22	85
	計	11	9	7	4	2	4		40	133



(前田 直樹)

Ⅲ 保健室の利用状況と今後の課題

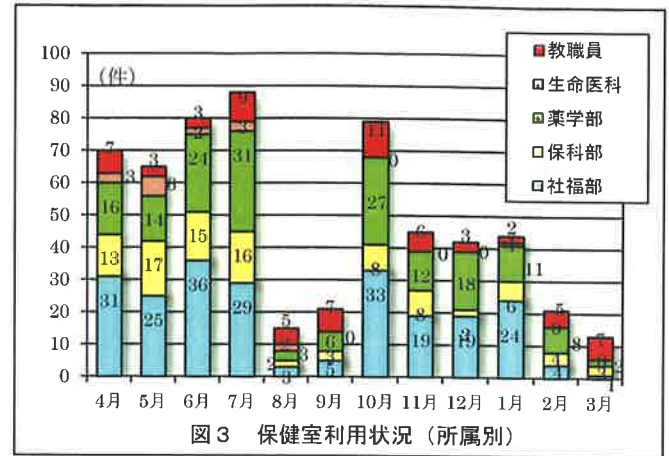
1. 保健室の利用状況

平成 27 年度の保健室利用者総数（累計）は 589 名（学生 515 名、教職員 68 名、その他 6 名）であり昨年度より約 140 名増加していた。

1 日の平均利用者は 3 名程度であった。

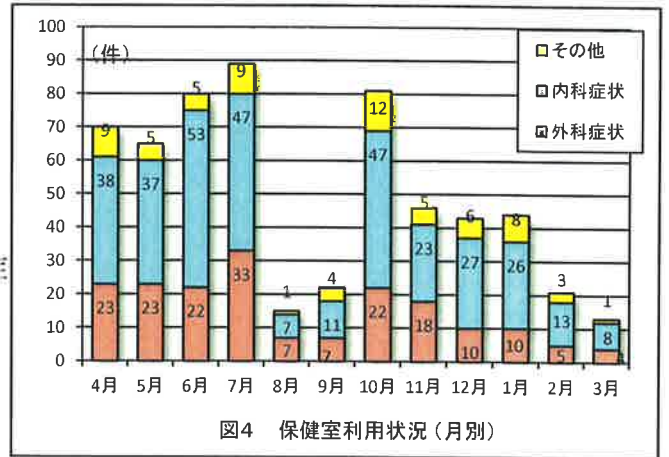
所属別の利用状況では、社会福祉学部 39%、保健科学部 16%薬学部 29% 生命医科学部（1 年生のみ）2%となっていた。

昨年度に比べ保健科学部は減少しているが、社福部薬学部はともに増加している。教職員の利用は 12 %であった。（図 3、表 3）



月別、症状別の利用状況をみると例年同様、内科症状での利用が多かった。年度初めから夏休みを挟み 10 月までは利用も多く月平均 76 名であった。

この時期は風邪、頭痛、消化器症状での利用も多いがメンタル面の不調による利用及びベッド休養も多い。11 月以降は季節的に症状や発熱を伴う消化器症状が多かったが本年度は昨年度に比べインフルエンザの流行時期が 2 月にずれ込んだ為、昨年度の学内での感染拡大はせず学生課での把握と併せても報告者は 10 名前後であり病院受診者総数は昨年より減少している。外科症状での利用は通学途中のバイク等での転倒による外傷が特に年度初めは多かった。



続いて擦り傷、打撲が多い。内科症状に比べ約半数であった。

曜日別ではさほど大差はなく、時間別では昼休み時間、及び 1 限目終了後の 10 時台が多かったが例年同様の傾向であった。

本年度は睡眠目的での利用もベッドの空き状況によって容認し時間を区切っての使用を行った。メンタル面の不調によるベッド利用も増えており、その他の利用及びベッド休養者数の増加につながった。また休憩時間や空き時間を保健室で過ごす学生もいる。このような学生に話を聞いてみると隠れた悩みを引き出すことができたり、専門委員のカウンセリングに繋いだりしたケースもあった。（図 4～8、表 2）

今後の課題

本年度の利用者数は昨年度に比べ増加したが体調不良を訴えて保健室を利用するには心の不調が隠れていることも少なくない。学生世代特有の生活環境の不慣れや、健康管理の意識の未熟さ、持病の悩み、対人関係、学業に追われながらのアルバイトの両立など心身とともに疲労している状況の中で休養をとり心を落ち着けられる環境づくり、居場所づくりがより必要となってくると思われる。また心身の健康管理や生活習慣などへの意識の向上へ関心を持たせるために引き続きパンフやポスター掲示、ユニパを利用した情報提供や感染予防等の勧奨を行う。また学生相談室、学生課や各学科とも情報交換を行い密に連携を図っていく必要があると考える。

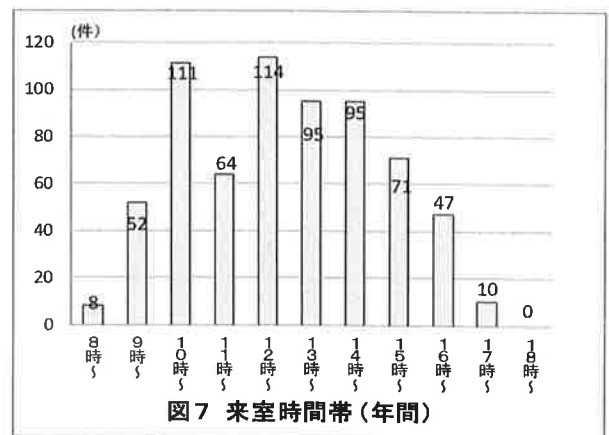
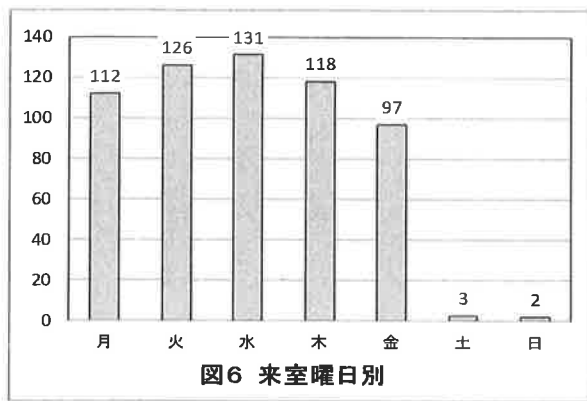
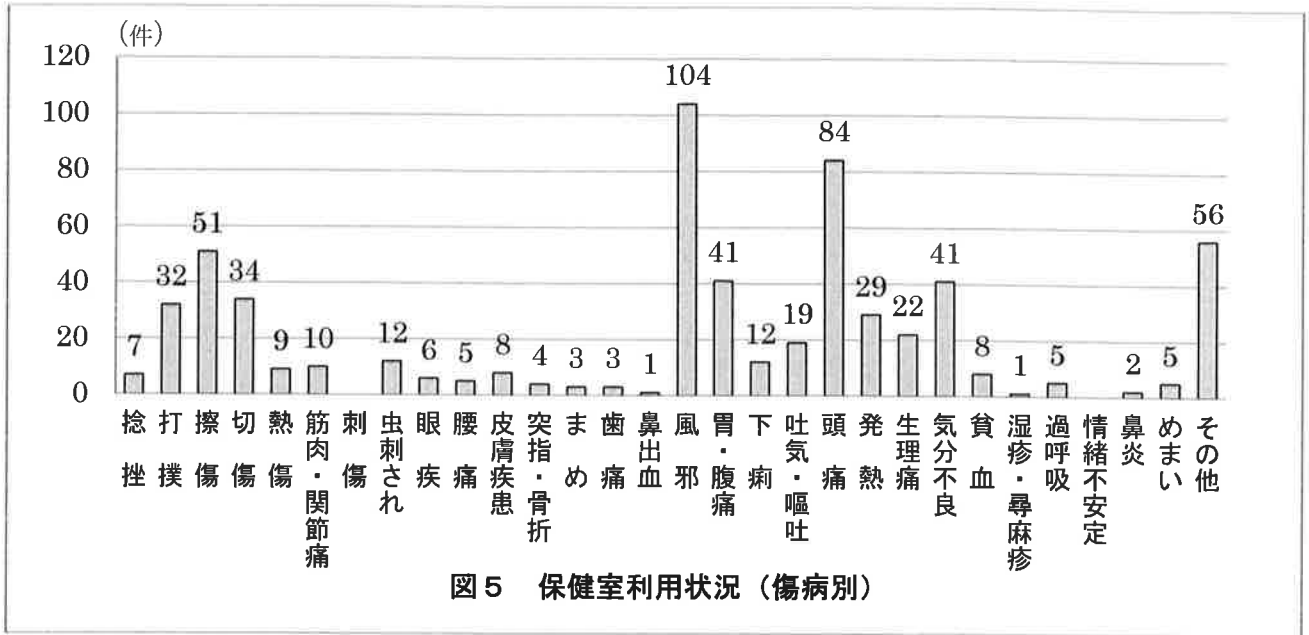
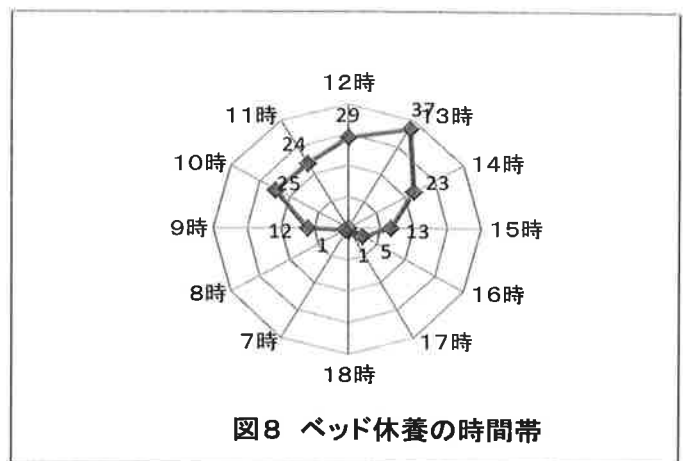


表2 ベッド休養処置・受診及び受診勧告件数

	休養	受診	受診勧告
4月	22	5	3
5月	17	1	1
6月	28	1	1
7月	30	2	0
8月	2	0	0
9月	4	2	0
10月	21	1	0
11月	12	3	0
12月	14	0	1
1月	9	1	2
2月	10	3	1
3月	1	1	0
計	170	20	9



※ 内科症状の休養者 130名/337名(38.5%)

表3 27年度 保健室利用状況

社会福祉学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	9	3	6	4	2	7	31
5月	6	7	10	1	0	1	25
6月	18	5	9	2	2	0	36
7月	9	5	7	1	5	2	29
8月	1	0	2	0	0	0	3
9月	1	2	1	0	1	0	5
10月	14	5	5	2	6	1	33
11月	3	4	7	2	2	1	19
12月	8	6	1	1	3	0	19
1月	9	2	4	3	5	1	24
2月	1	1	2	0	0	0	4
3月	1	0	0	0	0	0	1
合計	80	40	54	16	26	13	229

薬学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	5	3	4	4	0	0	16
5月	4	6	1	1	2	0	14
6月	8	9	3	3	0	1	24
7月	7	8	11	3	0	2	31
8月	0	1	0	1	1	0	3
9月	2	1	1	0	2	0	6
10月	10	8	1	6	1	1	27
11月	2	6	4	0	0	0	12
12月	2	7	4	3	0	2	18
1月	4	4	1	1	0	1	11
2月	1	4	0	0	1	2	8
3月	1	0	0	0	0	1	2
合計	46	57	30	22	7	10	172

保健科学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	6	3	2	2	0	0	13
5月	4	6	3	2	0	2	17
6月	2	7	1	3	0	2	15
7月	3	7	3	3	0	0	16
8月	1	1	0	0	0	0	2
9月	0	1	0	2	0	0	3
10月	1	0	0	4	3	0	8
11月	2	2	1	1	0	2	8
12月	1	0	0	0	0	1	2
1月	3	2	0	0	1	0	6
2月	2	1	0	1	0	0	4
3月	1	0	2	0	0	0	3
合計	26	30	12	18	4	7	97

生命医科学部 (1年生のみ)

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	1	1	1	0	0	0	3
5月	2	0	2	2	0	0	6
6月	1	1	0	0	0	0	2
7月	0	0	3	0	0	0	3
8月	0	0	2	0	0	0	2
9月	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	1
1月	0	0	1	0	0	0	1
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	2	9	2	0	0	17

教職員

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	1	6	0	0	0	0	7
5月	1	1	0	1	0	0	3
6月	1	1	1	0	0	0	3
7月	4	4	0	1	0	0	9
8月	3	0	2	0	0	0	5
9月	1	3	1	2	0	0	7
10月	1	6	1	3	0	0	11
11月	1	2	2	1	0	0	6
12月	1	2	0	0	0	0	3
1月	0	2	0	0	0	0	2
2月	1	2	0	2	0	0	5
3月	1	4	0	2	0	0	7
合計	16	33	7	12	0	0	68

その他

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	1	0	0	1
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	1	1
10月	1	1	0	0	0	0	2
11月	1	0	0	0	0	0	1
12月	0	0	1	0	0	0	1
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	1	1	1	0	0	6

総計(男女/症状別)

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	22	16	13	10	2	7	70
5月	17	20	16	7	2	3	65
6月	30	23	14	8	2	3	80
7月	23	24	24	9	5	4	89
8月	5	2	6	1	1	0	15
9月	4	7	3	4	3	1	22
10月	27	20	7	15	10	2	81
11月	9	14	14	4	2	3	46
12月	12	15	6	4	3	3	43
1月	16	10	6	4	6	2	44
2月	5	8	2	3	1	2	21
3月	4	4	2	2	0	1	13
合計	174	163	113	71	37	31	589

総計(所属別)

	社福部	保科部	薬学部	生命医科	教職員	他	合計
4月	31	13	16	3	7	0	70
5月	25	17	14	6	3	0	65
6月	36	15	24	2	3	0	80
7月	29	16	31	3	9	1	89
8月	3	2	3	2	5	0	15
9月	5	3	6	0	7	1	22
10月	33	8	27	0	11	2	81
11月	19	8	12	0	6	1	46
12月	19	2	18	0	3	1	43
1月	24	6	11	1	2	0	44
2月	4	4	8	0	5	0	21
3月	1	3	2	0	7	0	13
合計	229	97	172	17	68	6	589

(完岡 恭子)

IV 付 録

1 ジカ熱について

薬学部教授、健康管理センター委員

佐藤 圭創

2 AED 設置マップ

トピックス

- ・ 今年、ブラジルでオリンピックがあり、ジカ熱の感染拡大が懸念されましたが、今のところ、日本では大きな問題になりませんでした。
- ・ しかし、来年以降も感染拡大が懸念されており、ジカ熱に対する知識の共有が必要であると考えます。
- ・ そこで今回は、ジカ熱の資料を作成しました。

九州保健福祉大学・薬学部・臨床生化学講座教授

九州保健福祉大学・健康管理センター委員（医師・産業医）

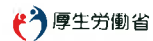
佐藤 圭創



ジカ熱

「国際的に懸念」
WHOが緊急事態宣言

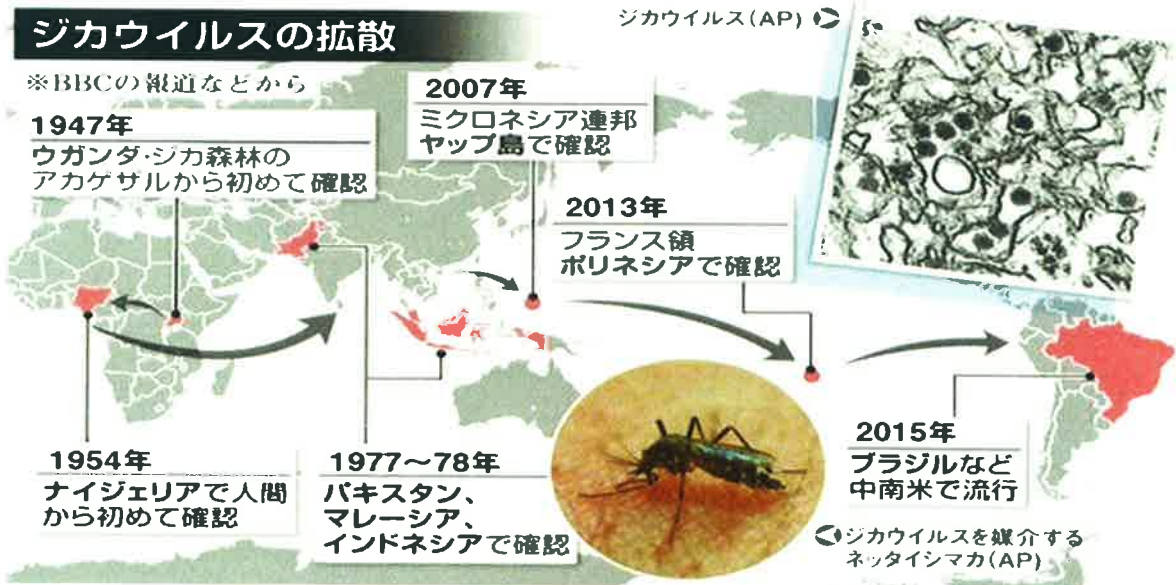
- 感染: **ジカウイルス**(フラビウイルス科フラビウイルス属)を持つ蚊に刺されて感染
ウイルス血症を伴う場合は、**濃厚接触**(性交など)にて感染する可能性あり
唾液と尿から生きたジカウイルス見つかリ、**他の感染経路も注意必要**
- 潜伏期: **2~7日**(10日以内)
- 症状: 軽度の**発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感、頭痛**が主症状
軽度の**血小板減少**を認めることもある。**デング、チクングニア熱より軽症**
無症状のこともある
- 流行地域: アフリカ、中央・南アメリカ、アジア太平洋地域。近年は、**中南米で流行している**
- 蚊: ヤブカ属の**ネッタイシマカ**(国内にはいない)や**ヒトスジシマカ**(日本にもいる)が、ウイルスを媒介。
- 診断: 診断のための検査は、血液からの**ウイルス分離**または**PCR法**による病原体遺伝子の検出。血清学的検査による診断は、交差反応のため困難(デング、ウエストナイル、黄熱病と交差反応する)
- 治療: 特効薬なし、**対処療法のみ**。有効な**ワクチンなし**
- 予後: **症状は軽く**、2~7日続いた後に治り、**予後は比較的良好な感染症**
- 鑑別疾患: **デング熱**及び**チクングニア熱**、(チフス、マラリア、レプトスピラ症)
- 問題点: 妊婦に感染すると、**小頭症の新生児**が生まれる恐れがある。
ギラン・バレー症候群の発症との関連もあると言われています。



●WHOが「ジカ熱」について“緊急事態”宣言を行った



【ジュネーブ共同】世界保健機関（WHO）は1日、ブラジルなど中南米を中心に拡大し、知的障害を伴うこともある小頭症との関連が疑われているジカ熱について「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると宣言し、妊娠している女性が感染地域を訪問する場合は注意を払うよう呼び掛けた。



日本国内での発生

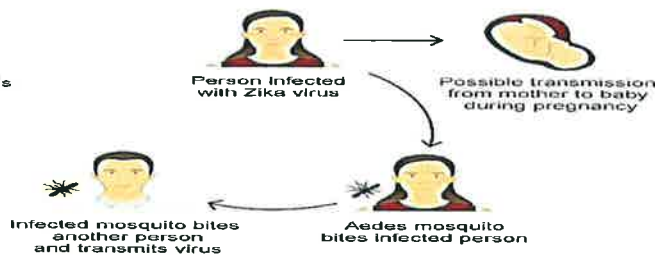
- ASR(2014年2月号)フランス領ポリネシア・ボラボラ島帰国後にZika feverと診断された日本人旅行者の2例
- IASR(2014年10月号)タイ・サムイ島から帰国後にジカ熱と診断された日本人旅行者の1例
- 本年、その後、海外帰国者からの数例の報告あり。国内発症は、報告されていない。

オリンピックで世界に拡散 ⇒ 日本で発生の可能性あり

Zika virus transmission cycle

Symptoms

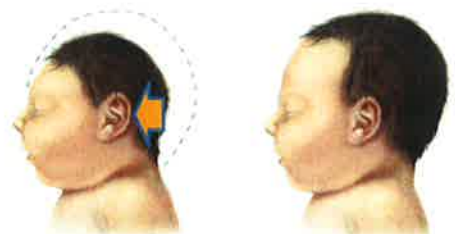
- Fever
- Rash
- Joint pain
- Conjunctivitis (red eyes)



小頭症

- 小頭症にかかると、胎児の時または出産時の脳と頭蓋骨が月齢に比べて異常に小さく、結果として脳にさまざまな程度の損傷が生じる。深刻な場合は、早期に死亡する。脳が未発達だと、体が適切に機能できない。
- 可能性のある原因は、感染症、ウイルス、有害物質、未知の遺伝要因など。
- 小頭症の発症例が、ジカ熱流行地域で増大している。
- 小頭症で死産した胎児や羊水から、ジカウイルスが検出している。最近、脳からもウイルスの分離確認
- ジカウイルスと小頭症の関係

は、まだ科学的には解明されていないが、何らかの因果関係はあると考えられている。



小頭症

日本国内でジカウイルスに感染する可能性はある？



- 日本にはジカウイルス感染症の媒介蚊であるヒトスジシマカが日本のほとんどの地域(秋田県および岩手県以南)に生息
- 仮に流行地でウイルスに感染した発症期の人(日本人帰国者ないしは外国人旅行者)が国内で蚊にさされ、その蚊がたまたま他者を吸血した場合に、感染する可能性は低いながらもあり得る。
- 蚊は冬を越えて生息できず、限定された場所での一過性の感染(越冬できない)
- ヒトスジシマカは、日中、野外での活動性が高く、活動範囲は50～100メートル程度。国内の活動時期は概ね5月中旬～10月下旬頃

海外旅行中(流行地域)に蚊に刺された場合はどこに相談？

- すべての蚊がジカウイルスを保有している訳ではないので、蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はない。
- 心配な場合は、帰国された際に、空港等の検疫所でご相談する。
- 帰国後に心配なことがある場合は、最寄りの保健所に相談する。

延岡保健所

所在地:延岡市大貫町1丁目2840番地

電話:0982-33-5373

FAX:0982-33-5375

九州保健福祉大学
平成 27年度 健康管理センター 活動報告書

平成 28 年 12 月発行

表紙装丁 完岡 恭子

写真 秋葉 敏夫 (通信教育部 部長)

発行者 九州保健福祉大学健康管理センター

〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714-1

TEL 0982-23-5555 (代表)

印刷所 明巧堂印刷株式会社

〒882-0063 宮崎県延岡市古川町 82 番地 10

TEL 0982-33-6327



九州保健福祉大学
平成 27年度
健康管理センター 活動報告書